

# κύριος

## キュリオス

知っておきたいキリスト教のことば (90)

主 しゅ

「主」という漢字は、「あるじ」や「ぬし」ではなく、「しゅ」と読みます。ギリシア語のキュリオスは、一般的な主君や先生を指す言葉です。新約聖書の中でも、ぶどう園の主人や子ろばの持ち主など、キュリオスが使われています。

また聖書には、イエス様に対して、敬称として「主」と呼んでいる箇所も見られます。しかしイエス様の十字架と復活の後、「主」はイエス様の尊称として、教会の宣教や福音書の記述の中で用いられるようになっていきます。その理由は、旧約聖書で父なる神のことを呼ぶときに、この「主」が使われたからです。

旧約聖書はヘブライ語で書かれていますが、神さまをあらわす語として「ヤハウェ」が用いられていました。ところが十戒の中に「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかれぬ。」(出エジプト記 20:7)という戒めがあり、「ヤハウェ」という神名は読まれなくなっていきます。そして「ヤハウェ」と書かれたところを「アドナイ」と読むようになります。その「アドナイ」のギリシア語訳が「キュリオス」(主)なのです。

つまり、イエス様を「主」と告白することは、イエス様を神さまだと告白することに等しいのです。

ですからイエス様が「主」であると信じるのが、キリスト教の信仰告白の中心となります。パウロはローマの信徒の手紙にこのように書いています。「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマの信徒への手紙 10:9)

「主イエス様！」という祈りの言葉も、わたしたちの素晴らしい信仰告白となるのです。

次回は「十字架」です。楽しみに。



「イエスに触れるトマス」

ドゥッチオ・ディ・ブオンセーニャ

(1255～1319年頃)

トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。

(ヨハネによる福音書 20章 28節)

